

<資料紹介> 大内兵衛資料のリハウジング

中村, 美香 / NAKAMURA, Mika

(出版者 / Publisher)

法政大学大原社会問題研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Journal of Ohara Institute for Social Research / 大原社会問題研究所雑誌

(巻 / Volume)

770

(開始ページ / Start Page)

47

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

2022-12

大内兵衛資料のリハウジング

中村 美香

はじめに

- 1 「大内兵衛資料」について
 - 2 リハウジングについて
- おわりに

はじめに

本稿は、法政大学大原社会問題研究所所蔵「大内兵衛資料」の再整理にともなうリハウジング作業について紹介するものである。「リハウジング」とは、資料の保存状態を見直し、より扱いやすく保存に適した状態に改善する作業である。

大内兵衛資料のリハウジングの契機となったのは、2020年に開設された法政大学「HOSEI ミュージアム」である。HOSEI ミュージアムのデジタルアーカイブ登録に向けた撮影のため、大内兵衛資料を貸し出すにあたり当該資料を確認したところ、詳細な目録がなく、資料の保存状態も持ち運びも不安があることがわかった。貸し出しに際しては、目録を作成し、資料の散逸と破損を防止する必要があったことから、2021年9月～10月に資料の保存修復手当てと保存箱を作成するリハウジングを行った。

HOSEI ミュージアムは、法政大学創立150周年となる2030年を展望して策定された長期ビジョン「HOSEI2030」の一環として、総長を中心に、学内の各研究所、図書館、資格課程、付属校、大学史セクションに関係する教職員により2015年から準備され、2020年にミュージアム・コア（市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階）が開館した。HOSEI ミュージアムのデジタルアーカイブは、法政大学の貴重な学術資料やコレクションをデジタル化して保存・管理し、学内外への公開・活用を促進することを目的に構築され、HOSEI ミュージアムのWEBサイト上で2020年3月18日から公開された⁽¹⁾。

(1) 「HOSEI ミュージアム開設経緯」『HOSEI ミュージアム紀要』創刊号、2021年3月、67-68頁、83頁。

1 「大内兵衛資料」について

大内兵衛は、1888年兵庫県三原郡（淡路島）で生まれ、1906年第五高等学校（熊本）に入学し、卒業後は1909年9月東京帝国大学法科大学経済学科に進学した。大学では経済学科教授であった高野岩三郎に「統計学」を学んだ。大学卒業後は大蔵省に入省し、在職中の1918年東京帝国大学農科大学講師を兼任して、翌年、東京帝国大学に経済学部が新設されるにつき助教授となり「財政学」を担当した。1920年森戸事件に連座して大学からは休職を命じられ、大蔵省の職も失官退職し、高野が所長となった大原社会問題研究所の研究嘱託となった⁽²⁾。1921年3月ヨーロッパに向けて出発し、5月からはドイツのハイデルベルク大学に留学して、1923年10月に帰国した⁽³⁾。留学中の1922年2月に東京帝国大学助教授に復職し、1923年10月の帰国後11月に教授となった。大原社会問題研究所においては、研究員として『日本労働年鑑』の編集にかかわり、また研究所主催の講演会、講習会の講師をつとめ、調査研究を行った。1938年、人民戦線事件⁽⁴⁾の教授グループの一人として検挙され、再び大学は休職となり、1945年の敗戦まで復職はかなわなかった。しかし大原社会問題研究所においてはその間も委員として研究所の運営に携わり、また多くの著書を出版した。敗戦後1945年に東京大学経済学部に戻り、1949年東京大学を退官。その後1950年から1959年まで法政大学第8代総長をつとめた。1949年の大原社会問題研究所の法政大学との合併の時には、大学理事として合併を支えた。この間、日本学士院会員、日本学術会議会員、社会保障制度審議会会長、統計審議会会長、日本統計学会会長などを歴任し⁽⁵⁾、法政大学退職後も多くの著作を発表して1980年に91歳でその生涯を閉じた⁽⁶⁾。

大内総長時代に法政大学は財団法人から学校法人となり、また学内のさまざまな整備がなされ「飛躍的に発展」したと位置づけられている⁽⁷⁾。総長時代に市ヶ谷キャンパスに完成した55・58年館とともに造られた日本庭園の築山は、大内総長の名を冠して「大内山」と呼ばれ、また2019年に完成した新校舎も「大内山校舎」という名称が冠された。これは在学生・父母・卒業生・教職員

(2) 森戸事件とは、東大経済学部の機関誌『経済学研究』の創刊号（1920年1月）に森戸辰男助教授の書いた論文「クロボトキンの社会思想の研究」が社会の秩序を乱すものとして検察当局の摘発を受け、著者森戸および雑誌発行名義人の大内兵衛助教授が起訴された事件である。法政大学大原社会問題研究所編『大原社会問題研究所100年史』法政大学出版局、2020年、31頁、36頁。

(3) 大内兵衛『経済学五十年』（東京大学出版会、1960年）の「年譜」（509頁）では2月出発となっているが、同書本文（119頁）では3月と自ら語っている。大原社会問題研究所の『研究所日誌』には1921年2月28日「森戸氏午後二時神戸に向出発」、3月1日「高田幹事森戸、大内、両氏見送りのため神戸に出張細川も同行」とあるため、ここでは3月出発とした。大内兵衛『私の履歴書』（黄土社書店、1951年）には、「高野先生から、大原の方でも少しは手伝ってやろうといわれた。月百円もなかったが、とにかく手当をくれるという。」（195頁）とあり、研究所からの援助があったことがわかる。

(4) 政府が、日本無産党や日本労働組合全国評議会などの労農派関係者を治安維持法違反で1937年と1938年の2回にわたって一斉検挙した弾圧事件。

(5) 「大内兵衛先生年譜」『大内兵衛著作集 第12巻』岩波書店、1975年、723頁。

(6) 大内の生涯については、大内兵衛『我・人・本』（岩波書店、1958年）、大内兵衛『一九七〇年』（岩波書店、1969年）を参考にした。

(7) 法政大学百年史編纂委員会編『法政大学百年史』法政大学、1980年、285頁。

から寄せられた合計 381 件の名称案の中から学内選考委員会の審査を経て決定した名称であり、現在でも大内の功績が大学に評価されていることがわかる⁽⁸⁾。「HOSEI ミュージアム」のデジタルアーカイブにおいても、大内は「人物から見る法政大学」の 13 人のうちの 1 人に選ばれ、2022 年 9 月 20 日現在、71 点の関係資料のデジタルデータが掲載されている。

大内は、研究所創立の翌年 1920 年から晩年まで長く研究所にかかわった人物であり、研究所が所蔵する「大内兵衛資料」は、大内が研究所に在籍していた時期に執筆した原稿や所持していたものを中心に研究所が所蔵しているものである。その内容は以下のとおり多岐にわたっている。

「大内兵衛資料」目録

番号	枝番	タイトル	年月日	内容
人民戦線資料・裁判関係				
1		〔「幽閉一年有半」・「予審終結決定と事件の概要」〕	昭和 14 年 8 月 7 日・昭和 15 年 2 月 20 日	「巢鴨拘置所」内での「一年有半の記憶」と「〔人民戦線〕事件の真相」に関する「報告書」・「忘備録」の目的で書かれた大内の手記「幽閉一年有半」及び、大内兵衛「予審終結決定と事件の概要」が一括された資料
2		『財政学大綱』を中心とする被告の学問的体系の検討		大内の著書『財政学大綱』二巻を「マルクス主義」と結びつける「検察当局」に対する反論のために書かれた弁明文書の原稿か
3		労農論議	〔昭和 10 年 11 月 22 日以降〕	「資本主義発達史講座」・「労農派」両陣営による「労農論争」開始に関する、「東朝」〔『東京朝日新聞』〕掲載記事（「ラヂオビーコン」名義）を筆写した資料か
4		乾板の入違ひか	〔昭和 10 年 12 月 17 日以前〕	「東朝」〔『東京朝日新聞』〕の「赤外線」欄掲載の記事（3 の資料の元記事）に対する反論記事の原稿
5		マルクス主義と私の立場	〔昭和 13 年 11 月 12 日以前〕	「早稲田警察署」で大内を書き、「長谷川検事に提出」した「手記」の案文資料
6		阿部事務所及労農派と私との関係	〔昭和 13 年〕 11 月 15 日	大内が「治安維持法」違反の嫌疑をかけられるに至った原因である「阿部事務所」・「労農派」と自身の関係について陳述すべく書かれた文書の原稿か
7	1～4	〔大内兵衛ノートブック〕	〔昭和 12 年 10 月 27 日～昭和 16 年 12 月 20 日〕	人民戦線事件関連の検討資料・メモが記されたノートブックほか
その他				
8	1～139	新聞・雑誌記事切抜		
9	1	榎田克己書簡	〔1982 年〕 3 月 4 日	「大内兵衛先生」が正月の「朝日」〔新聞〕に掲載した「春秋風雨」の「ナマ原稿」を「大原社研」で保存してはどうかと考えたので送付する旨伝える榎田克己から大島清宛の書簡

(8) 「法政大学市ヶ谷キャンパス、新校舎名称が「大内山校舎」に決定」『市ヶ谷経済新聞』2018 年 5 月 9 日記事 (<https://ichigaya.keizai.biz/headline/2726/>) 2022 年 9 月 20 日最終閲覧。

9	2	大内兵衛先生晩年の原稿	1982年春	法政大学大原社会問題研究所による9-3の資料の紹介文
9	3	春秋風雨	[1976年1月1日以前]	『朝日新聞』1976年新年号掲載記事の原稿
10		「日本の経済学」の源流 福田徳三	1972年5月	「福田徳三」に関する文章の原稿
11		マルサス解説	[1962年9月16日以前]	「マルサス」に関する著作〔高野岩三郎・大内兵衛共訳『初版人口の原理改訂版』（岩波文庫、1962年）か〕の訳註・「解説」等の草稿ノートか
12		家族私有財産の起源	1961年4月	エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』に関する研究ノート・人名メモ
13		〔スミソニアン体制の世界〕		「スミソニアン体制の世界」（『日経』、十二月20-30）に関する記録ノート
14		経済学五十年	1959年7月15日	非売品書籍。巻頭に大内自筆の記念の辞あり
15		〔旧制五高プレート〕		「武夫原頭歌」〔旧制第五高等学校寮歌〕・「綱領」が記され、旧制五高の校章があしらわれた金属製プレート
16		〔大内兵衛印鑑〕		角型落款印2点・筒形印鑑（「大内」）1点
17		〔社会主義協会バッジ〕		「社会主義協会」の文字及び、中央にルビーが埋め込まれ、その周囲に星があしらわれたバッジ
18		〔大内家表札〕	1973年7月23日	表面に「大内」、側面に「大内兵衛」と墨書された木製表札
19	1～2	〔大内兵衛眼鏡・虫眼鏡〕		大内兵衛が使用していたと思しき眼鏡と虫眼鏡
20		（鎌倉市平和宣言記念碑写真）	[1972年8月1日以降]	「鎌倉市」の「平和宣言」（昭和33年8月10日）の木製記念碑（大内兵衛書）を写した額装写真
21		Science and Poetry〔科学と詩歌〕	明治40年9月14日	英文書籍。「Ouchi Hyōe」が「May 23th, 1908」に「Kumamoto」で〔第五高等学校時代か〕購入したことを窺わせる英文メモ・詩の書き込みあり
22		大内兵衛書簡	[1922年]8月15日	大内兵衛「混沌の独逸より」の草稿を含む、大内の独逸滞在中の書簡
23		「大内先生愛用の硯」・木箱		大内兵衛が愛用していたと思しき硯とそれを収めた木箱
24	1～5	芳名簿	昭和35年～昭和41年	「大内会」〔大内兵衛を囲む会合か〕の芳名簿
25		金蘭帖	[昭和17～27年]	詩文・会合出席者名などの墨書色紙を束ねた色紙帖
26		君子不同帳	昭和23年9月29日・昭和34年9月26日	「祝大内教授還暦」記念・「経済学五十年出版記念大内会」の出席者名を記した色紙を束ねた色紙帳

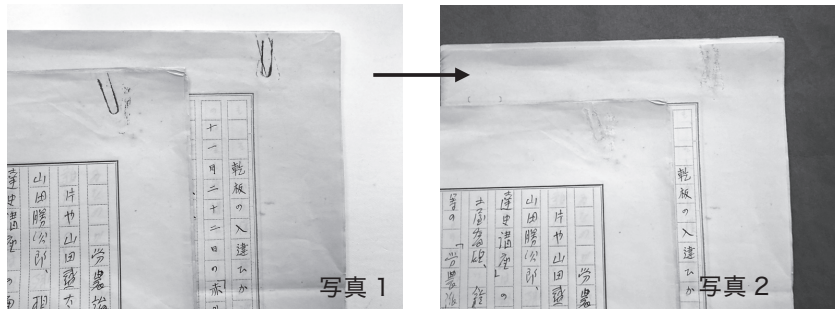
27		〔絵皿〕		「社会主義は闇に面するか光に面するか民蔵」の文字があしらわれた絵皿。榊田民蔵の香典返しの品か
28		〔絵皿〕		大内兵衛の肖像写真があしらわれた絵皿(大内の遺品)
29	1～4	(「高野先生追憶会」写真)	1972年4月	「高野先生〔高野岩三郎〕追憶会」の際の大内らを写した写真
30		(大内兵衛胸像写真)	〔昭和35年1月12日〕	大内兵衛の胸像を写した写真
31	1	〔大内兵衛色紙〕	〔1973年〕	「白日依山儘黄河入海流」(漢詩「登鸛鵲樓」の一部)が書かれた「兵衛八十五」の年の色紙
31	2	〔大内兵衛色紙〕	1956年1月25日	「Friedrich Engels」の「London4, Januar 1981」の文章(ドイツ語)及び、「日本の社会主義」に関する大内の文章が書かれた色紙
31	3	〔大内兵衛色紙〕	1976年8月末日	大内の「米寿」記念の色紙
31	4	〔大内兵衛色紙〕	〔1971年〕	「芭蕉」の句「野分してたらひに雨を聞く夜かな」にまつわる文章が書かれた色紙
31	5	〔大内兵衛色紙〕		「堺とし彦のうた」が書かれた色紙
31	6	〔大内兵衛色紙〕		大内の短文が書かれた色紙
31	7	〔大内兵衛色紙〕	〔1973年〕	大内の俳句が書かれた色紙
アルバム				
32	1～139	(大内兵衛写真)	〔1901年4月～1979年〕	

- ・〔 〕の表記は、資料・写真内に明確な記述がなく、整理者が推定したものであることを示す。
- ・タイトル欄の()は、写真内に明確な表題記述がなく、整理者が推定で付した写真タイトルである。
- ・目録作成：立本絃之(法政大学大原社会問題研究所兼任研究員)。

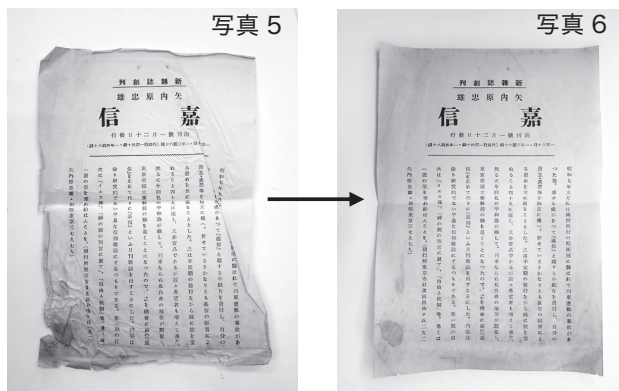
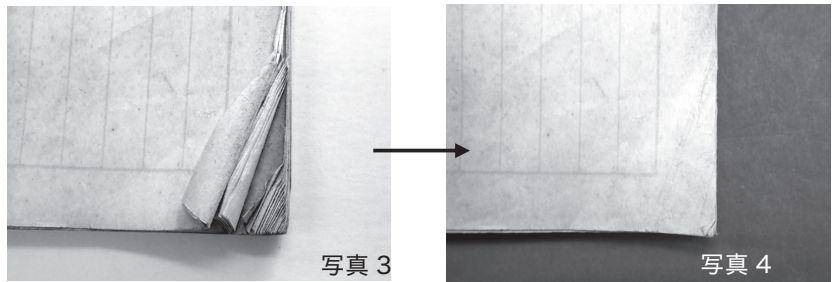
2 リハウジングについて

これまで「大内兵衛資料」は研究所5階の貴重書庫内の金庫に保存されていた。一部は中性紙の封筒に入れられてはいたが、封筒が破れているものもあり、全32点(今回の目録作成でカウントした点数、枝番を除く)がばらばらの状態で重ねられていた。これまでも何回か閲覧や調査で当該資料を金庫から取り出すことがあったが、必要な資料を見つけるのに時間がかかり、また使用した資料を戻す作業も簡単ではなかった。今回、HOSEIミュージアムの撮影用に資料を貸し出すにあたり、資料を取り扱いやすく傷めず安全に移動させるために考えられる方法について「東京修復保存センター」に相談したところ、資料ごとの必要な手当てと保存箱の作成を提案された。所内で提案を精査した結果、当該業者に作業を発注した。作業内容は、①クリップ痕のさび除去、②修復が必要な資料の繕いなどの手当て、③資料を傷めず出し入れできる資料サイズの保存箱の作成である。保存箱の作成にあたっては、個々の保存箱が市販の中性紙の新聞用文書箱2つに収まって持ち運びやすい形になる作業を依頼した(文末資料「大内兵衛資料リハウジング結果一覧」(東京修復保存センター作成)参照)。

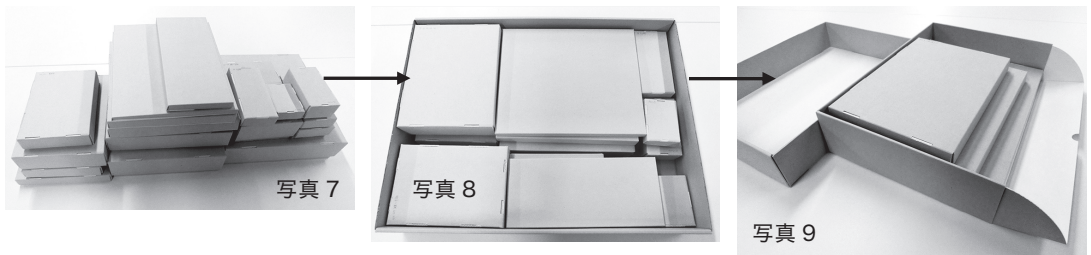
①写真1～2
クリップ痕のさび除去



②写真3～6
修復が必要な資料の繕いなどの手当て（紙の反り直し、修復）



③資料を傷めず出し入れできる資料サイズの保存箱の作成

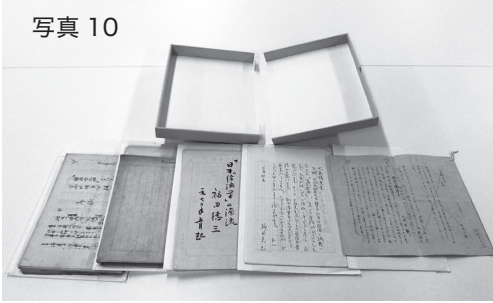


個々の保存箱。

新聞用文書箱に入った状態。個別の保存箱（写真7）が中性紙の新聞用文書箱2つに収まるようにした。

箱の一辺が開くことにより、重い資料もスライドして引き出すことができるようにした。資料1（「幽閉一年有半」・「予審終結決定と事件の概要」）コピーとともに収納。

写真 10



同じサイズの資料は中性紙の封筒に入れたうえで（写真10）、まとめてひとつの保存箱に収納することができるようにした（写真11）。結果的に保存箱の数が減り、コンパクトに收容することができるようになった。写真10の資料は、「大内兵衛資料」目録資料2～6, 9, 10, 22。

写真 11

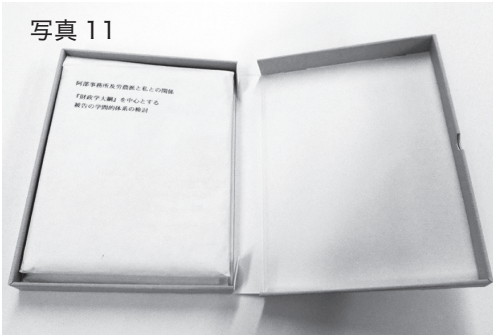
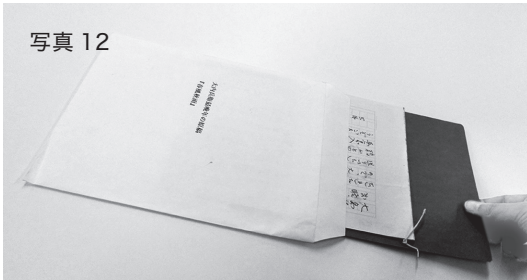


写真 12



資料9-3（「春秋風雨」原稿）。資料が破損しないようにスライド用のあて紙を引き出して資料を取り出せるようにした。

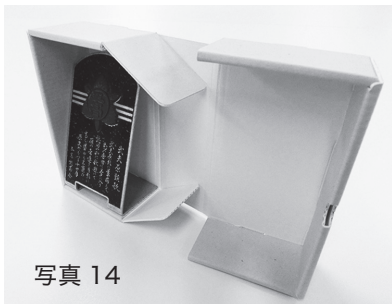
写真 13



資料23（硯）。破損している資料は引き上げて取り出すことができるように持ち手のついた厚紙で包むようにした。

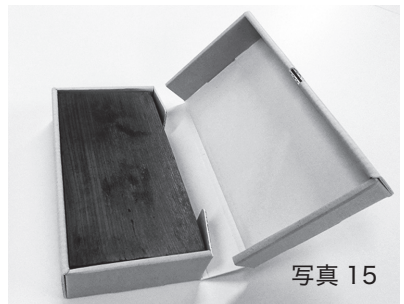
立体資料は箱の中で移動しないように資料の形に合わせて箱を作成した（写真14, 15）。

写真 14



資料 15（旧制五高プレート）

写真 15

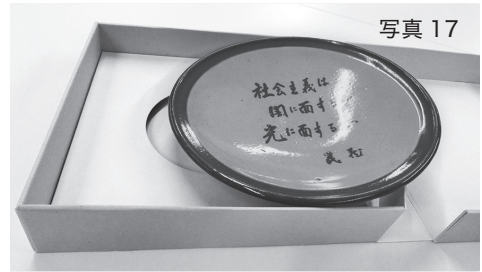


資料 18（大内家表札）

印鑑や絵皿は形に切った土台にはめ込んで収納した(写真16, 17)。



資料16 (大内兵衛印鑑)



資料27 (絵皿)

おわりに

今回、大内兵衛資料のリハウジングを行ったことで、個々の資料の状態を確認し、資料目録を作成することができた。資料全体の状態を把握することにより、資料の保存に関する情報を記録することができたことは、今後の資料保存方針を考えるうえでも役立つ成果であった。また今後の閲覧対応や展示への貸し出しにおいても、散逸を防ぎ、取り扱いやすくなる効果が生まれた。何より保存箱に収納することで、貴重な資料を劣化させず、長く保存することに効果が得られることを期待したい。

(なかむら・みか 法政大学大原社会問題研究所研究業務補助員)

【文末資料】大内兵衛資料リハウジング結果一覧表 (東京修復保存センター)

番号	形態	概寸	資料名	現在	容器	手当
1	原稿	B4 / B5	幽囚1年有半2冊, B4コピー	封筒	B5相当の原稿2冊をシェルボックス①②に納め, B4コピーをシェルボックス③に納め, 3つまとめてかぶせ箱①	表紙が破損大の1冊の繕い
2	原稿	B5	財政学大綱を中心とする被告の学問的体系の検討	封筒2, 6一緒	シェルボックス④薄い封筒にサポート紙を挿入	
6	原稿	B5	阿部事務所及労農派と私との関係			
3	原稿	B5 (B4)	労農論議	封筒3, 4, 5一緒		サビ除去
4	原稿	B5 (B4)	乾板の入れ違ひか			サビ除去
5	原稿	B5	マルクス主義と私の立場			
9	原稿	B5	春風秋雨	封筒		
10	原稿用紙	B5	日本の経済学の源流	封筒		サビ除去
22	書簡	B5	大内兵衛より高野岩三郎へ	封筒		

7	ノート	A5	事件関係ノート 4冊	封筒		
11	リングノート 2冊と薄いノート	A5	マルサス解説	封筒 11, 12, 13 一緒	シェルボックス⑤	繕い1枚, サビ除去2枚
12		A5	1961年4月家族私有財産の起源			
13		A5	スミソニアン体制の世界			
21	冊子	A5	Science and Poetry	封筒		
8	切抜き・小冊子	A5大	大学教授評判記	封筒	シェルボックス⑥保護用インナー作製	
14	図書	A5	経済学五十年	封筒	シェルボックス⑦透明のポリエステルフィルムの保護用カバー装着	革の劣化(レッドロット)にHPC塗布と糊差し
15	プレート	小サイズ	旧制五高竜南会	包み紙	シェルボックス⑧	
16	落款・印鑑	小サイズ	3つ	封筒	シェルボックス⑨インナー台作製	
17	バッジ	小サイズ	社会主義協会	箱	シェルボックス⑩	
18	表札	小サイズ	大内	包み紙	シェルボックス⑪中性紙で包む	
19	虫眼鏡・眼鏡	小サイズ	虫眼鏡・眼鏡	包み紙	シェルボックス⑫	
20	額入写真	変形	鎌倉市「平和宣言」	包み紙	差込フォルダ①	
23	硯と木箱	小・重い	硯	段ボール箱	差込フォルダ②とかぶせ箱②ドロップフロント式保護用インナー作製	
27	絵皿	26 cm径	社会主義は闇に面するか光に面するか	白いフォルダ	シェルボックス⑬インナー台作製	
28		27.5 cm径	本人写真柄	包み紙	シェルボックス⑭インナー台作製	
24	署名簿和綴じ本	A4	大内会 5冊	白いフォルダ	再利用	
25		A4	金襴帖	白いフォルダ	再利用	
26		A4	君子不同帖	白いフォルダ	再利用	
29	写真	小サイズ	大内兵衛 4枚	包み紙	写真をそれぞれ透明ポリエステルフィルムに挟み, 中性紙封筒に納め, まとめて差込フォルダ③	
30		B5相当	胸像ベニヤ板	封筒	差込フォルダ④	
31	色紙	26 × 29 cm	7枚	封筒	かぶせ箱③ドロップフロント式	
32	アルバム	30 × 30 cm・重い	法政大学制作	なし		

シェルボックス 14箱, 差込フォルダ 4箱, かぶせ箱 3箱